

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	河野 亜紀
自己評価作成日	平成30年 6月 30日

<p>【事業所理念】 【温】 温かな雰囲気の中で楽しく生活できる 様に支援します 目配り・気配り・心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議の内容を充実させる ご家族様への声かけや書面での開催の周知を行ったが成果はほとんどみられなかった。 日時や興味を寄せて頂ける行事や議題についても今後検討していく 会議の内容に関しては事前準備も含め再度引き続き検討課題である</p> <p>重度化や終末期に対する職員個々の知識・考え方の差 研修や体験を通じて得る知識も多く対応できる職員も多くなってきた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 地域の住宅地の中にある開設14年目を迎える事業所である。利用者一人ひとりの個性や意思を尊重しながら、生活の中でできることや役割を持ってもらい、その人らしい楽しみのある生活を送ることができるような支援をしている。この地域で暮らしていた利用者が多く、慣れ親しんだ場所で最期を迎えたいという希望に沿えるように看取り支援を行っており、主治医と連携して看護師や職員は協力しながら、利用者や家族が満足できる終末期を送れるように取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時にフェイスシートを記入して頂き情報収集したりご本人やご家族から聞き取りを行い意向の把握に努めている。	○	/	◎	利用者の思いや暮らし方の希望などを利用者や家族から聞き取って把握し、職員全員で情報共有をして、一人ひとりの希望に沿えるように支援を行っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族から話を聞いたり、入居前からの情報などから話し合いをし検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族・友達、知人の面会時に様子を知らせたり入居前の様子について話を聞きご本人の思いを話し合う機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活や言動について介護記録に記載し共有化を図っている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	ご本人の目線に立つよう心掛け相手の立場になって考え話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前の様子やフェイスシートの記入をして頂き情報収集に努めている。面会に来られた方にも話を聞くようにしている。	/	/	○	利用者や家族のほか、入居前に利用していたサービス事業所などから生活環境や生活歴などを聞いたり、入居前の自宅訪問で馴染みの暮らし方やこだわりなどを把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し話し合い現状の把握に努める。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状況やご本人の様子を観察し記録・申し送りにて職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	状況を把握しカンファレンスで話し合うようにしている。話し合った事は職員で把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察しカンファレンスしケアプランに反映する様に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の立場に立ち、何が必要かを考え計画作成担当のみの視点とならない様に全体で検討している。	/	/	◎	利用者が望む暮らしとは何か、知り得た情報をもとに利用者の立場になって課題や支援内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日頃の様子やご本人やご家族の意向も踏まえアセスメントしカンファレンスで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人に何が必要かを検討した内容を基に課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえたケアプランの内容にしている。ケアプランの見直しの際は再度、意向の確認を行っている。				利用者や家族からの意見や要望が反映された介護計画を、各利用者の担当職員とユニットリーダー、計画作成担当者が話し合っ作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご家族の面会の際には意向を聞いたり参考にしてはいる。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	情報を基に慣れ親しんだ環境や暮らしに近づくように努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族に協力して頂けることは計画に盛り込んだりお声かけをさせて頂く。地域の方へは少ない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスで話し合いを行い計画書は職員で把握し共有できる様にしている。			◎	職員は、支援内容を介護計画のサービス内容と連動した番号を表記して記録に残しており、利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握して、職員間で情報共有や状況の確認を行っている。利用者一人ひとりの様子や、職員の気づきなどを記録して情報共有に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い状況把握に努め3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしをありのままに記録として個別に残している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の気づきを介護記録に記載したり申し送りノート等にて職員に周知し情報共有に努め話し合いをしている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスの時に計画作成担当・担当職員が中心となり全職員で3ヶ月に1回見直しを行っている。			◎	3か月に1回介護計画の見直しを行っている。状態に変化が見られない時でも、毎月モニタリングを通して現状確認を行っている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度話し合い現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い現状把握に努めている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	ご本人に状況に変化があった場合は期間にこだわらず話し合いの場を持ち、ご家族・ご本人の意向も踏まえ計画の見直しを検討している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンス開催している。必要に応じ臨時で開催することもあり。			◎	毎月の事業所全体での会議の後、各ユニットに分かれて話し合いを行っている。職員がなるべく参加しやすい日時を設定しているため、職員はほぼ全員参加し意見交換や情報共有を行っており、参加できない職員には会議録を回覧し情報の共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ホーム全体・各ユニットで話し合う時間を設け議題も予め検討しておき意見が出る様にしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月の日を設定しておりほぼ全員参加出来ている。参加出来なかった職員については会議録にて把握してもらっている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録や後日口頭で伝え全体に周知している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	全体申し送りノート・各ユニット申し送りノートの活用閲覧した職員はサインをし把握に努めている。			◎	毎日の申し送りで職員間で情報共有を行い、申し送りノートを活用して内容を確実に理解してから、既読のサインをするようにしており、職員全員が情報を共有するよう徹底している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご本人の様子や出来事を朝・夕の職員間の申し送りにより情報伝達したり申し送りノートの活用している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご本人の表情や言葉でしたい事の把握は可能であるがそれを叶えることは出来てない事がある。出来る範囲で叶えるようには努めている。	/	/	/	入浴時間や外出先、好みのおやつなど選択する機会を増やすよう努めている。利用者はレクリエーション等を楽しそうに行っており、いきいきした表情を窺うことができる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を与えられる問いかげや声掛けをしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定の出来る方にはその都度ご自身で決めて頂く。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りご自身のペースに合わせ支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員や他の入居者との会話の機会を作ったりレク等を通じて活き活きた表情を見る事ができる。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言動からご本人になって思いや意向を考える様にしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内研修や事業所内研修を行っている。新人研修・現任研修で接遇マナーについても再度学んでいる	◎	◎	◎	職員は研修で人権や尊厳について学んでおり、利用者が不快に感じる介助や声かけをしないよう意識してケアを行っているが、時にはできていないこともあるので、職員全員に徹底し皆で取り組めるようになることに期待したい。居室に入る際のノックと声かけは、職員全員に徹底されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	その人その人を傷つけるような接し方や発言は避けるようにしているが、時に失礼にあたるのでは？と感じる事もある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	トイレの声かけの際につい大きな声で声掛けしたりトイレ使用中に扉がよく閉まっていなかったりしている事がある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際はノックしたり声掛けするようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報取り扱いの書面にサインしており入職時や現任者研修にて徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら相手の気持ちに寄り添い信頼関係を作るよう努めている。感謝の気持ちも忘れずに接していくようにしている。	/	/	/	職員は利用者の性格や利用者同士の関係を把握しており、トラブルを未然に防ぐように努めている。職員は常に利用者の様子を注意深く見守っており、必要に応じて職員が間に入るなど、利用者同士いい関係が築け、全員が和やかに過ごせるよう支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士が互いに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が互いに助け合っている姿を見かける又、職員はその場面を見守り時には間に入りフォローしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	注意深く見守り、必要に応じて職員が間に入りフォローしたり良い関係が築ける様に配慮するようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り双方の気持ちや思いに耳を傾け大きなトラブルにならない様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し面会にこられた方にも関係をお聞きしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し馴染みの暮らしや地域これまで関わってこられて地域の事をお聞きし把握に努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に行く機会は出来る限り作る様にしているが外出に関してはその時のご自身の状況等により機会は少ない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間を設けず玄関の戸は気候によりオープンとし開放的で入りやすい様、配慮している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り希望に沿うよう努めているが、その時の状況で相談している。	○	○	○	近所のスーパーに買い物に行ったり、散歩に出かけるなどなるべく利用者の希望に沿って外出できるように努めている。車で出かける外出行事や外食なども利用者にとって楽しみになっており、重度の利用者も外出できるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族に協力して頂く事はとはあるが地域やボランティアの方に協力をして頂く事は無い	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や天気を見ながら車椅子やリクライニング式車椅子で戸外へ出る機会を作る様に努めている	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	車を使い、イチゴ狩りや動物園・喫茶店等に入居者の意向も踏まえ計画を立てている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を行っている お一人お一人、症状も違い対応も違う為、カンファレンスや申し送りの際に情報を共有し統一したケアにつなげていくように努めている	/	/	/	職員が見守りさりげなく支援することにより、利用者には調理や後片付けの手伝いなど、できることに取り組んでもらえるよう配慮しており、心身機能の維持や意欲が向上するよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事は日々の生活の中で把握しケアにつなげて行ける様に心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方の持つ力をアセスメントしその力が継続できるよう見守り支援出来る様声掛けや場面作りを心掛けている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きな事を把握し希望を踏まえながら役割や出番がある様に職員がその場面づくりをしていけるよう心掛けている。	/	/	/	利用者の得意なことを活かしながら、日常生活の中で役割を持って張り合いのある暮らしができるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活の中で洗濯物たたみ・テーブル拭き・新聞たたみ等やレクを通じて役割を持って頂くよう声掛けや働きかけを行っている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割づくりの機会はほとんどない。地域行事に参加はさせて頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みを把握しそれに応じた身だしなみを心掛けている	/	/	/	整容の乱れや汚れに関しては、利用者が嫌な気持ちにならないよう声かけに配慮するなど、さりげない支援に努めている。気温に応じた快適な服装を、利用者の好みを尊重しながら選んでもらっている。きれいにお化粧をされている利用者もおり、入居前のおしゃれの習慣を継続できるように支援している。重度の利用者も家族から好みの服装を聞いたり、訪問美容を利用し本人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	好みを把握し好みに応じて対応している 理美容に関しては訪問理美容の方により個々の好みでお願いしている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族よりご本人の好みを聞き確認している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の好みに応じて支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないようにさりげなく声掛けし直したり居室へ戻り対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理美容にてご本人の希望にて行っている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問理美容にてご家族に希望を聞き対応している 服装に関してもご家族様から希望をきいている	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さや食の楽しみ、見た目の楽しみなど理解している	/	/	/	利用者の重度化もあり、調理や後片づけなど以前に比べるとできない部分もあり、今後は食材の買い物を一緒にしたり献立について話したりする機会を増やして欲しい。季節に応じて食材を選ぶなど、旬のものを味わってもらよう支援に努めている。箸や茶碗などは利用者の馴染みのものを使用している。食事中は付き切り介助の利用者もおり、食事サポートに集中するため、職員は食事の時間は見守りと介助を行っている。お好み焼き作りやおやつ作りを食卓で行うなど、重度の利用者も匂いや雰囲気を感じられるよう配慮している。栄養士のアドバイスなどは受けていないが、給食委員会で献立や栄養について話し合い、利用者の栄養バランスに配慮した支援に努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	買い物へは時々出かけることもあるが 調理や後片付けなどは入居者の状況にて現状できていない	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。			/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に事前情報として把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に応じて食材を選んだり献立作りをしている おやつを通じて和菓子作りを楽しむ機会を作っている	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食事形態にかんしては状態に応じて対応している 食材に応じて器を変えたり彩りにも配慮している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご自身の使い慣れたなじみのある物を使われている	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の見守りサポートはできているが 同じ食卓を囲み職員と一緒に食べることはできていない	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音や匂いは常にあり 食事前には手洗いなどを行い食事という雰囲気は感じて頂いている	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりに応じた量を提供している 水分も2回のおやつも含め適度に摂取してもらっている カロリーについては計算できていない	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が少ないときは飲み物を変えたり時間をずらして勧めている 低栄養の場合や食事が取れない場合は高カロリーの飲み物・ゼリーなどで対応している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を開催し献立について話し合う機会がある 栄養士のアドバイスは現状受けたことはない	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員一人ひとりが細心の注意を払い手洗いやエプロンの着用 調理器具に消毒などを行い、食材は加熱調理を行い賞味・消費期限をチェックしている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	訪問歯科の衛生士により定期的に研修を行っており理解している。	/	/	/	毎食後の歯磨きを習慣にしており、職員は利用者の口腔内の状況は常に把握している。職員は利用者一人ひとりの口腔内の清潔が保てるよう、口腔内の炎症等はないかなど常にチェックしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察するよう心がけている 義歯の取り外しの際も観察するよう心がけている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的な研修や 訪問の際に諮問したり口腔ケアの技法についても尋ねたりしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	衛生士より正しい手入れを教わり出来ている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎日習慣化し出来る範囲でご自身で行って頂けるよう声掛けや支援します その際、口腔内の観察にて出血や炎症のチェックを心がけています	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	ご家族やご本人の意向を聞きながら 訪問歯科に診察を依頼している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さは理解している 自尊心を傷つけないよう配慮し	/	/	/	排泄のタイミングに合わせたトイレ誘導を行い、常時オムツの使用からトイレでの排泄になった利用者もおり、オムツに頼り過ぎずトイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりの状態に合った支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修などを通じて把握している 個人差がある為、個々の状況を把握し情報の共有に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご家族やご本人からのお話や 日々の生活の中で把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで出来る限り排泄できるように支援している 紙おむつ類もその方に適した種類を選び使用して頂いている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因となっている事柄を探り 出来る限り取り除けるよう検討している 検討した事柄は職員間で共有している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを知り 早めに声掛けをさせて頂き排泄支援している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量などを考慮しながらパット類を選んだり ご家族にも意向を聞いたりすることがある	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	個々の排泄パターンなどを考慮し昼・夜とで使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	排泄パターンを把握し水分を多く飲用して頂いたり、野菜や食物繊維など献立で配慮している その方にあった対応が出来るよう心がけている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	申し出があれば出来る限り希望に添えるよう配慮している 午前・午後入浴希望や浴槽の湯の温度もその都度、調整している。	◎	/	○	時間や入浴日、湯温など、利用者の希望に沿えるよう支援に努めている。一般浴槽での入浴が困難な利用者は、隣接する施設の特殊浴槽で安全に入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個室でその方の入浴ペースで焦らずゆっくりくつろいで頂く	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	その方の残存能力を活かし可能なことはご自身で行って頂く	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を把握し職員間で周知している 強制的・威圧的になる事なく声掛けしていく 日や時間を変えてみたり根気強く行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	申し送りにより前日夜間の様子やバイタルサイン、そのほか状態を観察し看護職員や主治医に相談し支持を仰ぐ	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居時の情報や日々の睡眠状況により把握している	/	/	/	利用者が安眠できない原因を検討して日中の過ごし方や生活リズムを工夫して対応している。服薬のある利用者は状態を見ながら、職員間で情報を共有し、主治医と相談して薬剤に頼り過ぎないように取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探り 日中の活動内容・入浴・排泄・不安などを見直し本来のリズムが取り戻せるよう心がける	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で情報を収集し職員間で検討し周知している 主治医に現状の報告を行い指示を仰ぐ	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて適宜休んでいただく配慮を行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	時間などを考慮し電話はかけてもらっている 手紙は一部職員がお手伝いさせて頂きながら書かれているかたもおられる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いさせて頂く	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個々で携帯電話を持たれ自由に使用されている 又、電話を受け取り引き継ぐ最も適切な対応を心掛けている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご家族の面会時にお渡ししたり、しばらく面会が途絶えた場合は郵送で送り何らかの形で届くようにしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に迷惑とならない時間帯で協力をお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分で持ちたい意思の強い方は小銭程度ではあるがご家族が持たされている方がいる。ほとんどの方は事務所預かり。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	ご本人より申し出があった場合は出かけることあり 日常的にはできていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物に出かけることはない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族とも相談しながら協力を得るようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人やご家族と話しする機会を作っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事務所預かりの場合は金銭管理規定に基づき取り扱っている 金銭管理規定については入居時に説明させて頂き契約書に署名・捺印を頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	寝台車が必要な場合は介護タクシーを利用したり 松山市立図書館を利用したり、その時々々のニーズに合った対応を心掛けるようにしている	◎	/	○	図書館へ行ったり介護タクシーを準備するなど、利用者や家族のニーズに柔軟に対応できるよう支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気候によっては玄関の扉は開放しており入りやすい開放感を感じやすいような配慮は心掛けている	◎	◎	○	建物の1階がデイサービスで、事業所は2階部分になっているが、入口には建物の2階にグループホームがあることを分かりやすく表示している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	毎月壁紙を張替えその時々季節を感じて頂いている キッチン是对面式であり常に目配りが出来る。 ホールにはテレビやソファがあり設置位置も考えている	○	◎	◎	キッチン是对面式になっており、リビングの様子が見渡せるような作りになっている。リビングの窓からは近くの神社の庭が見えるため、四季折々の木々の彩りを楽しむことができる。廊下の奥まった部分やリビングに採光の窓があり、明るい空間になるように工夫している。掃除が行き届き不快な臭いなどはなくきれいで清潔感がある。季節感が感じられるよう事業所内の壁面などの飾りを工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	併設する建物で居室内が少し暗く感じる部屋あり 不快な音や臭いには配慮している	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じることが出来るようホール内の壁画やカレンダーで工夫している	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者同士が楽しく過ごせる憩いの場・空間づくりをしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレは共用空間から見える可能性が高く扉は閉めて対応している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前の様子をご家族より聞きながら相談し ご自宅での慣れ親しんだ物(茶碗・箸・湯のみ)居室内に椅子やテーブル・仏壇・テレビ等、可能な限り持ち込んで頂いている	◎	/	◎	仏壇や冷蔵庫など、馴染みのあるものや必要なものを持ち込めるようになっており、居心地良い空間になるように配慮している。クローゼットのほかにダンスも備え付けられており、衣類などを整理して収納できるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて居室内にPTイレなどを置いている	/	/	◎	居室やトイレの場所が分かりやすいように、入口の表示を工夫している。廊下にある時計は利用者の目線の高さに設置しており、見えやすいように配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルにあった対応や工夫をしている 少しでも混乱したり不安になる言動が見られたときは早急に改善して行くよう心がけている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々で必要に応じ可能な限り 馴染みの物を希望に沿って使ってもらっている	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	玄関の鍵、扉を開放している日も多い 入居者の状況により鍵を掛けていることもあるが最小限となるように努力している	◎	◎	△	事業所の玄関の近くに階段があり、利用者の状態と職員の勤務状況を踏まえ、利用者の安全を考慮し玄関を施錠していることもある。職員は施錠に対する弊害については理解しており、利用者が外出したい時は自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	ご家族に入居の説明の際にお話しさせて頂き、鍵を閉める理解については理解を頂いていると思うが そのとき以外の話し合いは全く、話しをする機会を設ける必要あり	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	建物自体の鍵は日中開放しているが ユニット(ホーム)への出入り口はセンサーで人の出入りがわかる様になっており可能な限り開放している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際に情報で周知し把握できている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプラン等で個々の異常のサインやその対応の方法を把握しており、記録はもちろん必ず申し送り、ノートへ記載し職員全員へ周知徹底している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	小さなことでもいつもと違う変化が見られたときは看護師・主治医にすぐ連絡し相談、指示を仰ぐ流れは出来ている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえ受診して頂いている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際に必ずご本人・ご家族と話し合い主治医を決定している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診が必要な場合は主治医や看護師よりご本人やご家族へ説明し納得を得る 報告についても看護師または主任が適切におこなうようにしている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は職員が同伴しサマリーで情報提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病棟の職員・地域連携室の方と連絡を取り合い状況を把握するとともに病院へ見舞いへ行き様子を拝見している。 その際はご家族にも連絡し様子を知らせている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を伺い挨拶させてもらっている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小さな変化や気づきでも報告・相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師には24時間いつでも連絡がとれる 一部の主治医に関しては診察時間内のみの連絡しか対応しておらず。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルサインの観察や日頃と違った様子を観察し情報交換し主治医につなげている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院や薬局から頂く説明書に沿って理解している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックを職員同士が行い間違いのないようにしている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状態を観察し主治医に報告・相談している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日々の状態を観察し異常があればすぐに看護師・主治医に報告している	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の際必ず話し合っており希望に沿っている 何かの節目や長期入居の際は意向を再度聞いたりする	/	/	/	職員は研修を重ねるほか、経験者から実例を聞くなどし利用者本位の看取り支援に努めている。重度化や終末期のケアについて、主治医等医療関係者とも連携し、利用者と家族を交え意向を確認するほか、話し合いを持ち方針を共有し支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員には情報を共有しており 主治医にもご本人やご家族の意向を伝えている	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	研修を行い経験の回数に関わらずどの職員がその場面に立ち合ったとしても必要なケアなど提供できるよう、主治医とも密に連絡を取り相談している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居の際にご説明させて頂き納得して頂いている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や看護師・ご家族の意向を大切にしながら検討し 検討内容や方針を全職員で周知している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の不安や悩みはしっかり聞いている 可能な限り希望に沿うよう配慮している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロ・インフルエンザなどな研修を行い理解している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って行う。 研修を行い周知徹底をしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市や県のホームページより情報を入手し 事業所内でも注意喚起している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域ニュースや会議などの意見交換の際に情報収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがいのみならず必要に応じマスク着用をし来訪者には 玄関口で手指消毒をお願いしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の状況や様子をご家族へ報告したり、郵便物を送る際に一緒にご様子を書いた紙を入れている				家族に事業所の行事案内を行い、利用者やほかの家族と交流できる機会を作っている。毎月の請求書送付時に利用者の様子の報告や手紙を同封したり、その都度電話連絡などを行い利用者の様子を伝えている。事業所行事などは報告しているが、職員の退職等異動については伝えていないので、今後の取組みに期待したい。面会時には職員から家族に声かけをして、気軽に話したり相談しやすいように働きかけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は現在実績ないが簡易ベットがあり対応は出来るようにしている。気軽に入れる環境づくりは日頃より心がけている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の参加呼びかけや案内状の送付を行い機会作りはしている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっているご家族についてはホームより電話連絡を入れ様子を知らせたりメールにて近況報告させて頂いている	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	不安な事や意向などを確認しながら報告させて頂いている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や身体状況の悪化などご家族にも理解を得られるよう声掛け、説明している 最善な関わり方もアドバイスさせて頂くこともあり				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告については出来ているが職員の異動や退職についてはホーム側からお伝えすることはほとんどない	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議の案内や全体レクの案内をしている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明の際にあらゆるリスクを含め説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	主任や担当職員が中心となり行っている			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居の際に説明を行い理解を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去希望がある場合は転居先に希望通り移れるよう支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には説明し同意を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前の地域近隣の方々への説明はあったと聞いてはいるが理解を得られているか否かについては分からない	/	◎	/	近所のスーパーや神社で日常的に地域住民と挨拶や話をしたり、地域の幼稚園と行事を楽しんだり地域との関わりはあるが、事業所の存在が地域に浸透しさらにつながりを深めていきたいという思いにとどまっており、地域行事への参加も職員に限られているため、利用者も参加できるよう取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶などは出来ている 地域の清掃活動・非難訓練・祭りなどの行事は参加できているがほぼ職員の参加であり入居者自身でないことが多い	/	◎	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の方で中には気にしてくださっている方はおられるがまだまだ理解を得られるようにしたい	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議には来て頂ける方もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶を含め天気のことや 日常会話をさせて頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	過去に数回ボランティアに来て頂き 琴やフラダンスなど披露して頂いたことはある 定期的にボランティアにお願いできる体制を作りたい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域で入居者が利用できる施設があれば利用している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣スーパーや幼稚園など関わりを持っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加のお声掛けはしているが得にご家族の参加が少なく同じ方に偏る傾向	○	/	△	地域住民や家族の参加があり、事業所の活動状況などを伝えて意見交換を行っているが、参加メンバーの固定化もあり、近くの駐在所や地域のお世話役の方などに声かけを行い、多方面からの参加がある取組みに期待したい。外部評価の結果等については、会議で報告し浸透しており、結果報告するだけでなく参加者からは意見や提案を出してもらい、事業所の課題解決等に役立っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告や活動報告は毎回行っている サービス評価についても話している	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	事業所で困っていること等も含め会議の場でいい案を伺ったりし情報を得ている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	曜日や時間帯をかえたり 事業所の行事に合わせてたり工夫はしている	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ファイルにいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすく職員全員が理解し共通認識を持っている。理念に基づき日々の介護実践にあっている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでも分かりやすく伝えやすい	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人ない研修や事業所研修は基本的なことから専門的なことまで幅広く毎月1回行っている	/	/	/	代表者は職員が意欲を持って気持ちよく働けるような環境づくりに努めており、管理者を通して職員の意見や要望を伝えることができる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は管理業務・その他の担当業務に追われているが各主任と連携しながら行えるよう努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格や勤続年数なども考慮している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人外研修や勉強会に参加しており他事業所の職員と情報交換や相談などを行う機会がある	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話しはしっかり聞いてくれ解決できることは意向に沿ってもっている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修により理解できている	/	/	/	具体的にどのような行為が虐待にあたるのか、身体的心理的に細かく説明された文書があり、事業所内に掲示されている。職員は虐待防止や発見した場合の対応などを研修で学び、普段のケアを振り返り徹底に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りの時やカンファレンスの機会に話し合う時間を設けている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	各主任や管理者に相談し話し合う機会を作り不適切なケアが見過ごされていないか検討している	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には注意を払い、話しも聞き必要に応じ代表者へ報告する	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の生活の中やケアプランの見直しの際に話し合いを行い不適切なケアが行われないよう、見過ごされないようにする	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族より身体拘束の要望があってもその他の方法や対策をご家族に提案し、理解を得ている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度については研修もあったが日常生活自立支援についての理解は乏しい	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談があれば情報提供している	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後、必要に応じて行って行ける体制を作りたい	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアルを作成し周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や実践の中で身に付けている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットに基づき報告書を作成し委員会を開催し対応策を講じ全体に周知する	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり職員は理解している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情マニュアルがあり苦情が寄せられたら速やかにマニュアルに沿って対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	委員会があり九条が寄せられた場合は速やかに委員会を開催し対応策が話し合わせ職員に周知徹底している	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は設置しているがほとんどの場合、各ユニット職員に伝えることが多い	/	/	◎	利用者には普段の生活から、家族は面会時や電話などで意見や要望を把握するように努めている。管理者は普段から職員と現場にすることが多く、日常的に職員は管理者に意見や提案を伝えることができる環境にあり、心強さを感じる毎日である。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口の設置個別に面会の際に伺ったりしている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初の説明となっておりほぼ職員が聞く流れになっている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	連絡はいつでも取れ意見は聞いてくれる	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員より話を聞く機会はあるがそれを話し合う機会は作れていない	/	/	○	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回 自己評価に取り組んでいる				運営推進会議でサービス評価の結果を報告しているが、今後は目標達成に向けての取り組みについてモニターをしてもらい、より質の高い事業所にむけて事業所全体で取り組んでいくことが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題を明らかにするいい機会となっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を見つけ解決策や対応策を見出し取り組む意思はあるが日が経過すると意思がうすれ忘れがちになる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告はしているが取り組みのモニターについては今後行っていただける様に働き掛けていく	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが成果の確認は今後行って行きたい				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが原子力火災については今後早急に検討しマニュアル化したい				様々な想定で避難訓練を行い消防からのアドバイスももらっているが、地域住民にも参加してもらい、地域との協力体制を築いていけるような取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中での想定で行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練には消防署は参加して頂いているが地域の方にも協力、支援して頂けるよう働きかけて行きたい	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の訓練には参加している				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	初任者研修の講師を担当した職員がいる日々のご家族からの相談の中で実践を通じての体験談をお話させて頂いたり参考にしてもらったりしている				地域の高齢者や家族からの相談等のニーズもあり対応している。市や地域包括支援センターと連携を図り、地域の勉強会やボランティア活動に協力して積極的に参加するなど、地域との関係は強固になっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は支援している		○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用されていない				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は初任者研修の学生の受け入れがあったが今はない				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括センターによる西地区の勉強会を始め地域のボランティア活動は積極的に参加している			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年7月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3870105214
事業所名	グループホームいまづ
(ユニット名)	うめ
記入者(管理者)	
氏名	河野 亜紀
自己評価作成日	平成30年6月30日

<p>【事業所理念】 【温】 温かな雰囲気の中で楽しく生活できる 様に支援します 目配り・気配り・心配り</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 運営推進会議の内容を充実させる ご家族様への声かけや書面での開催の周知を行ったが成果はほとんどみられなかった。 日時や興味を寄せて頂ける行事や議題についても今後検討していく 会議の内容に関しては事前準備も含め再度引き続き検討課題である</p> <p>重度化や終末期に対する職員個々の知識・考え方の差 研修や体験を通じて得る知識も多く対応できる職員も多くなってきた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 地域の住宅地の中にある開設14年目を迎える事業所である。利用者一人ひとりの個性や意思を尊重しながら、生活の中でできることや役割を持ってもらい、その人らしい楽しみのある生活を送ることができるような支援をしている。この地域で暮らしていた利用者が多く、慣れ親しんだ場所で最期を迎えたいという希望に沿えるように看取り支援を行っており、主治医と連携して看護師や職員は協力しながら、利用者や家族が満足できる終末期を送れるように取り組んでいる。</p>
--	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時にフェイスシートを記入して頂き情報収集したりご本人やご家族から聞き取りを行い意向の把握に努めている。	○	/	◎	利用者の思いや暮らし方の希望などを利用者や家族から聞き取って把握し、職員全員で情報共有をして、一人ひとりの希望に沿えるように支援を行っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ご家族から話を聞いたり、入居前からの情報などから話し合いをし検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族・友達、知人の面会時に様子を知らせたり入居前の様子について話を聞きご本人の思いを話し合う機会がある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	日々の生活や言動について介護記録に記載し共有化を図っている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	ご本人の目線に立つよう心掛け相手の立場になって考え話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前のご様子やフェイスシートの記入をして頂き情報収集に努めている面会に来られた方にも話しを聞くようにしている。	/	/	○	利用者や家族のほか、入居前に利用していたサービス事業所などから生活環境や生活歴などを聞いたり、入居前の自宅訪問で馴染みの暮らし方やこだわりなどを把握するよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察し話し合い現状の把握に努める。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	状況やご本人の様子を観察し記録・申し送りにて職員で把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	状況を把握しカンファレンスで話し合うようにしている。話し合った事は職員で把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	入居前の情報を参考にし日々の生活を観察しカンファレンスしケアプランに反映する様に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ご本人の立場に立ち、何が必要かを考え計画作成担当のみの視点とならない様に全体で検討している。	/	/	◎	利用者が望む暮らしとは何か、知り得た情報をもとに利用者の立場になって課題や支援内容を検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	日頃の様子やご本人やご家族の意向も踏まえアセスメントしカンファレンスで検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人に何が必要かを検討した内容を基に課題を明らかにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ご本人やご家族の意向を踏まえたケアプランの内容にしている。ケアプランの見直しの際は再度、意向の確認を行っている。				利用者や家族からの意見や要望が反映された介護計画を、各利用者の担当職員とユニットリーダー、計画作成担当者が話し合っ作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	ご家族の面会の際には意向を聞いたり参考にしてている。	◎		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	情報を基に慣れ親しんだ環境や暮らしに近づくように努めている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族に協力して頂けることは計画に盛り込んだりお声かけをさせて頂く。地域の方へは少ない。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスで話し合いを行い計画書は職員で把握し共有できる様にしている。			◎	職員は、支援内容を介護計画のサービス内容と連動した番号を表記して記録に残しており、利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握して、職員間で情報共有や状況の確認を行っている。利用者一人ひとりの様子や、職員の気づきなどを記録して情報共有に努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎月モニタリングを行い状況把握に努め3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っている。			◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の暮らしをありのままに記録として個別に残している。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	日々の気づきを介護記録に記載したり申し送りノート等にて職員に周知し情報共有に努め話し合いをしている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	カンファレンスの時に計画作成担当・担当職員が中心となり全職員で3ヶ月に1回見直しを行っている。			◎	3か月に1回介護計画の見直しを行っている。状態に変化が見られない時でも、毎月モニタリングを通して現状確認を行っている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度話し合い現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	モニタリングを行い現状把握に努めている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	ご本人に状況に変化があった場合は期間にこだわらず話し合いの場を持ち、ご家族・ご本人の意向も踏まえ計画の見直しを検討している。			○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月カンファレンス開催している。必要に応じ臨時で開催することもあり。			◎	毎月の事業所全体での会議の後、各ユニットに分かれて話し合いを行っている。職員がなるべく参加しやすい日時を設定しているため、職員はほぼ全員参加し意見交換や情報共有を行っており、参加できない職員には会議録を回覧し情報の共有を図っている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	ホーム全体・各ユニットで話し合う時間を設け議題も予め検討しておき意見が出る様にしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	毎月の日を設定しておりほぼ全員参加出来ている。参加出来なかった職員については会議録にて把握してもらっている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議朗や後日口頭で伝え全体に周知している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	全体申し送りノート・各ユニット申し送りノートの活用閲覧した職員はサインをし把握に努めている。			◎	毎日の申し送りで職員間で情報共有を行い、申し送りノートを活用して内容を確実に理解してから、既読のサインをするようにしており、職員全員が情報を共有するよう徹底している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご本人の様子や出来事を朝・夕の職員間の申し送りにより情報伝達したり申し送りノートの活用をしている。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご本人の表情や言葉でしたい事の把握は可能であるがそれを叶えることは出来ない事がある。出来る範囲で叶えるようには努めている。	/	/	/	入浴時間や外出先、好みのおやつなど選択する機会を増やすよう努めている。利用者はレクリエーション等を楽しそうに行っており、いきいきした表情を窺うことができる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	選択肢を与えられる問いかげや声掛けをしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定の出来る方にはその都度ご自身で決めて頂く。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	可能な限りご自身のペースに合わせ支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	職員や他の入居者との会話の機会を作ったりレク等を通じて生き生きした表情を見る事ができる。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や言動からご本人になって思いや意向を考える様にしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	法人内研修や事業所内研修を行っている。新人研修・現任研修で接遇マナーについても再度学んでいる	◎	◎	◎	職員は研修で人権や尊厳について学んでおり、利用者が不快に感じる介助や声かけをしないよう意識してケアを行っているが、時にはできていないこともあるので、職員全員に徹底し皆で取り組めるようになることに期待したい。居室に入る際のノックと声かけは、職員全員に徹底されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	その人その人を傷つけるような接し方や発言は避けるようにしているが、時に失礼にあたるのでは？と感じる事もある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	トイレの声かけの際につい大きな声で声掛けしたりトイレ使用中に扉がよく閉まっていなかったりしている事がある	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室へ入る際はノックしたり声掛けするようにしている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報取り扱いの書面にサインしており入職時や現任者研修にて徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	コミュニケーションをとりながら相手の気持ちに寄り添い信頼関係を作るように努めている。感謝の気持ちも忘れずに接していくようにしている。	/	/	/	職員は利用者の性格や利用者同士の関係を把握しており、トラブルを未然に防ぐように努めている。職員は常に利用者の様子を注意深く見守っており、必要に応じて職員が間に入るなど、利用者同士いい関係が築け、全員が和やかに過ごせるよう支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士が互いに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	入居者同士が互いに助け合っている姿を見かける又、職員はその場面を見守り時には間に入りフォローしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	注意深く見守り、必要に応じて職員が間に入りフォローしたり良い関係が築ける様に配慮するようにしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り双方の気持ちや思いを傾け大きなトラブルにならない様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し面会にこられた方にも関係をお聞きしている	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	ご本人やご家族より情報収集し馴染みの暮らしや地域これまで関わってこられて地域の事をお聞きし把握に努めている	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所に行く機会は出来る限り作る様にしているが外出に関してはその時のご自身の状況等により機会は少ない	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	面会時間を設けず玄関の戸は気候によりオープンとし開放的で入りやすい様、配慮している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	可能な限り希望に沿うよう努めているが、その時の状況で相談している	○	○	○	近所のスーパーに買い物に行ったり、散歩に出かけるなどなるべく利用者の希望に沿って外出できるように努めている。車で出かける外出行事や外食なども利用者にとって楽しみになっており、重度の利用者も外出できるように取り組んでいる。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ご家族に協力して頂く事はあるが地域やボランティアの方に協力をして頂く事はない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や天気を見ながら車椅子やリクライニング式車椅子で戸外へ出る機会を作る様に努めている	/	/	◎	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	車を使い、イチゴ狩りや動物園・喫茶店等に入居者の意向を踏まえ計画を立てている	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を行っている お一人お一人、症状も違い対応も違う為、カンファレンスや申し送りの際に情報を共有し統一したケアにつなげていくように努めている	/	/	/	職員が見守りさりげなく支援することにより、利用者には調理や後片付けの手伝いなど、できることに取り組んでもらえるよう配慮しており、心身機能の維持や意欲が向上するよう支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の出来る事出来ない事は日々の生活の中で把握しケアにつなげて行ける様に心掛けている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方の持つ力をアセスメントしその力が継続できるよう見守り支援出来る様声掛けや場面作りを心掛けている。	○	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみや好きな事を把握し希望を踏まえながら役割や出番がある様に職員がその場面づくりをしていけるよう心掛けている	/	/	/	利用者の得意なことを活かしながら、日常生活の中で役割を持って張り合いのある暮らしができるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	生活の中で洗濯物たたみ・テーブル拭き・新聞たたみ等やレクを通じて役割を持って頂くよう声掛けや働きかけを行っている	○	◎	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域での役割づくりの機会はほとんどない。地域行事に参加はさせて頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みを把握しそれに応じた身だしなみを心掛けている	/	/	/	整容の乱れや汚れに関しては、利用者が嫌な気持ちにならないよう声かけに配慮するなど、さりげない支援に努めている。気温に応じた快適な服装を、利用者の好みを尊重しながら選んでもらっている。きれいにお化粧をされている利用者もおり、入居前のおしゃれの習慣を継続できるように支援している。重度の利用者も家族から好みの服装を聞いたり、訪問美容を利用し本人らしさが保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	好みを把握し好みに応じて対応している 理美容に関しては訪問理美容の方により個々の好みでお願いしている	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	ご家族よりご本人の好みを聞き確認している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ご本人の好みに応じて支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	ご本人の気持ちを傷つけないようにさりげなく声掛けし直したり居室へ戻り対応している	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問理美容にてご本人の希望にて行っている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	訪問理美容にてご家族に希望を聞き対応している 服装に関してもご家族様から希望をきいている	/	/	◎	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	口から食べることの大切さや食の楽しみ、見た目の楽しみなど理解している	/	/	/	利用者の重度化もあり、調理や後片づけなど以前に比べるとできない部分もあり、今後は食材の買い物と一緒にしたり献立について話したりする機会を増やして欲しい。季節に応じて食材を選ぶなど、旬のものを味わってもらおうよう支援に努めている。箸や茶碗などは利用者の馴染みのものを使用している。食事中は付き切り介助の利用者もおり、食事サポートに集中するため、職員は食事の時間は見守りと介助を行っている。お好み焼き作りやおやつ作りを食卓で行うなど、重度の利用者も匂いや雰囲気を感じられるよう配慮している。栄養士のアドバイスなどは受けていないが、給食委員会で献立や栄養について話し合い、利用者の栄養バランスに配慮した支援に努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	買い物へは時々出かけることもあるが 調理や後片付けなどは入居者の状況にて現状できていない	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	買い物に行かれることはあるが 調理をしたり等はする機会がほとんどない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居の際に事前情報として把握している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節に応じて食材を選んだり献立作りをしている おやつを通じて和菓子作りを楽しむ機会を作っている	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食事形態にかんしては状態に応じて対応している 食材に応じて器を変えたり彩りにも配慮している	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	ご自身の使い慣れたなじみのある物を使われている	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事の見守りサポートはできているが 同じ食卓を囲み職員と一緒に食べることはできていない	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音や匂いは常にあり 食事前には手洗いなどを行い食事という雰囲気は感じて頂いている	○	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	一人ひとりに応じた量を提供している 水分も2回のおやつも含め適度に摂取してもらっている カロリーについては計算できていない	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が少ないときは飲み物を変えたり時間をずらして勧めている 低栄養の場合や食事が取れない場合は高カロリーの飲み物・ゼリーで対応している	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	給食委員会を開催し献立について話し合う機会がある 栄養士のアドバイスは現状受けたことはない	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	職員一人ひとりが細心の注意を払い手洗いやエプロンの着用や調理器具に消毒などを行い食材は加熱調理を行う	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	訪問歯科の衛生士により定期的に研修を行っており理解している。	/	/	/	毎食後の歯磨きを習慣にしており、職員は利用者の口腔内の状況は常に把握している。職員は利用者一人ひとりの口腔内の清潔が保てるよう、口腔内の炎症等はないかなど常にチェックしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの際に観察するよう心がけている 義歯の取り外しの際も観察するよう心がけている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的な研修や 訪問の際に諮問したり口腔ケアの技法についても尋ねたりしている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	衛生士より正しい手入れを教わり出来ている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎日習慣化し出来る範囲でご自身で行って頂けるよう声掛けや支援します。その際に口腔内の観察にて出血や炎症の観察も行います	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	ご家族やご本人の意向を聞きながら 訪問歯科に診察を依頼している	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の自立の大切さは理解している 自尊心を傷つけないよう配慮し	/	/	/	排泄のタイミングに合わせたトイレ誘導を行い、常時オムツの使用からトイレでの排泄になった利用者もおり、オムツに頼り過ぎずトイレでの排泄を基本として、利用者一人ひとりの状態に合った支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修などを通じて把握している 個人差がある為、個々の状況を把握し情報の共有に努めている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	ご家族やご本人からのお話や 日々の生活の中で把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレで出来る限り排泄できるように支援している 紙おむつ類もその方に適した種類を選び使用して頂いている	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	要因となっている事柄を探り 出来る限り取り除けるよう検討している 検討した事柄は職員間で共有している	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄パターンを知り 早めに声掛けをさせて頂き排泄支援している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量などを考慮しながらパット類を選んだり ご家族にも意向を聞いたりすることがある	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	個々の排泄パターンなどを考慮し昼・夜とで使い分けしている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	排泄パターンを把握し水分を多く飲用して頂いたり、野菜や食物繊維など献立で配慮している その方にあった対応が出来るよう心がけている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	申し出があれば出来る限り希望に添えるよう配慮している 午前・午後入浴希望や浴槽の湯の温度もその都度、調整している	◎	/	○	時間や入浴日、湯温など、利用者の希望に沿えるよう支援に努めている。一般浴槽での入浴が困難な利用者は、隣接する施設の特殊浴槽で安全に入浴することができる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個室でその方の入浴ペースで焦らずゆっくりくつろいで頂く	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	その方の残存能力を活かし可能なことはご自身で行って頂く	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴を拒む原因を把握し職員間で周知している 強制的・威圧的になる事なく声掛けしていく 日や時間を変えてみたり根気強く行っている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	申し送りにより前日夜間の様子やバイタルサイン、そのほか状態を観察し看護職員や主治医に相談し支持を仰ぐ	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	入居時の情報や日々の睡眠状況により把握している	/	/	/	利用者が安眠できない原因を検討して日中の過ごし方や生活リズムを工夫して対応している。服薬のある利用者は状態を見ながら、職員間で情報を共有し、主治医と相談して薬剤に頼り過ぎないように取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	眠れない原因を探り 日中の活動内容・入浴・排泄・不安などを見直し本来のリズムが取り戻せるよう心がける	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日々の生活の中で情報を収集し職員間で検討し周知している 主治医に現状の報告を行い指示を仰ぐ	/	/	◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	個々の状況に応じて適宜休んでいただく配慮を行っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	時間などを考慮し電話はかけてもらっている 手紙は一部職員がお手伝いさせて頂きながら書かれているかたもおられる	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	職員が間に入りお手伝いさせて頂く	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	個々で携帯電話を持たれ自由に使用されている 又、電話を受け取り引き継ぐ最も適切な対応を心掛けている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ご家族の面会時にお渡ししたり、しばらく面会が途絶えた場合は郵送で送り何らかの形で届く様にしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご家族に迷惑とならない時間帯で協力をお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	自分で持ちたい意思の強い方は小銭程度ではあるがご家族が持たされている方がいる。ほとんどの方は事務所預かり。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	ご本人より申し出があった場合は出かけることあり 日常的にはできていない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	日常的に買い物に出かけることはない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	ご家族とも相談しながら協力を得るようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人やご家族と話す機会を作っている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	事務所預かりの場合は金銭管理規定に基づき取り扱いしている 金銭管理規定については入居時に説明させて頂き契約書に署名・捺印を頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	寝台車が必要な場合は介護タクシーを利用したり 松山市立図書館を利用したり、その時々ニーズに合った対応を心掛けるようにしている	◎	/	○	図書館へ行ったり介護タクシーを準備するなど、利用者や家族のニーズに柔軟に対応できるよう支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気候によっては玄関の扉は開放しており入りやすい開放感を感じやすいような配慮は心掛けている	◎	◎	○	建物の1階がデイサービスで、事業所は2階部分になっているが、入口には建物の2階にグループホームがあることを分かりやすく表示している。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	毎月壁紙を張替えその時々季節を感じて頂いている キッチン是对面式であり常に目配りが出来る。 ホールにはテレビやソファがあり設置位置も考えている	○	◎	◎	キッチン是对面式になっており、リビングの様子が見渡せるような作りになっている。リビングの窓からは近くの神社の庭が見えるため、四季折々の木々の彩りを楽しむことができる。廊下の奥まった部分やリビングに採光の窓があり、明るい空間になるように工夫している。掃除が行き届き不快な臭いなどはなくきれいで清潔感がある。季節感が感じられるよう事業所内の壁面などの飾りを工夫している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	併設する建物で居室内が少し暗く感じる部屋あり 不快な音や臭いには配慮している					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じることが出来るようホール内の壁画やカレンダーで工夫している					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者同士が楽しく過ごせる憩いの場・空間づくりをしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレは共用空間から見える可能性が高く扉は閉めて対応している					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	入居前の様子をご家族より聞きながら相談し ご自宅での慣れ親しんだ物(茶碗・箸・湯のみ)居室内に椅子やテーブル・仏壇・テレビ等、可能な限り持ち込んで頂いている	◎		◎	仏壇や冷蔵庫など、馴染みのあるものや必要なものを持ち込めるようになっており、居心地良い空間になるように配慮している。クローゼットのほかにダンスも備え付けられており、衣類などを整理して収納できるようになっている。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々の自立度に応じて居室内にPTイレなどを置いている				◎	居室やトイレの場所が分かりやすいように、入口の表示を工夫している。廊下にある時計は利用者の目線の高さに設置しており、見えやすいように配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	認知レベルにあった対応や工夫をしている 少しでも混乱したり不安になる言動が見られたときは早急に改善して行く心がけている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	個々で必要に応じ可能な限り 馴染みの物を希望に沿って使ってもらっている					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	玄関の鍵、扉を開放している日も多い 入居者の状況により鍵を掛けていることもあるが最小限となるように努力している	◎	◎	△	事業所の玄関の近くに階段があり、利用者の状態と職員の勤務状況を踏まえ、利用者の安全を考慮し玄関を施錠していることもある。職員は施錠に対する弊害については理解しており、利用者が外出したい時は自由に出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	×	ご家族に入居の説明の際にお話しさせて頂き、鍵を閉める理解については理解を頂いていると思うが そのとき以外の話し合いは全く、話しをする機会を設ける必要あり					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	建物自体の鍵は日中開放しているが ユニット(ホーム)への出入り口はセンサーで人の出入りがわかる様になっており可能な限り開放している					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居の際に情報で周知し把握できている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	アセスメントやケアプラン等で個々の異常のサインやその対応の方法を把握しており、記録はもちろん必ず申し送り、ノートへ記録し職員全員へ周知徹底している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	小さなことでもいつもと違う変化が見られたときは看護師・主治医にすぐ連絡し相談、指示を仰ぐ流れは出来ている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	ご本人やご家族の意向により受診して頂いている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居の際に必ずご本人・ご家族と話し合い主治医を決定している	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	病院受診が必要な場合は主治医や看護師よりご本人やご家族へ説明し協力を得る報告についても看護師または主任が適切におこなうようにしている	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は職員が同伴しサマリーで情報提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病棟の職員・地域連携室の方と連絡を取り合い状況を把握するとともに病院へ見舞いへ行き様子を拝見している。その際はご家族にも連絡し様子を知らせている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	医療連携室を伺い挨拶させてもらっている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	小さな変化や気づきでも報告・相談している	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師には24時間いつでも連絡がとれる一部的主治医に関しては診察時間内でのみの連絡しか対応していないが家族は了承されている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	バイタルサインの観察や日頃と違った様子を観察し情報交換し主治医につなげている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	病院や薬局から頂く説明書に沿って理解している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	ダブルチェックを職員同士が行い間違いのないようにしている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日頃の状況を観察し主治医に報告・相談している	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日々の状態を観察し異常があればすぐに看護師・主治医に報告している	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居の際必ず話し合っており希望に沿っている 何かの節目や長期入居の際は意向を再度聞いたりする	/	/	/	職員は研修を重ねるほか、経験者から実例を聞くなどし利用者本位の看取り支援に努めている。重度化や終末期のケアについて、主治医等医療関係者とも連携し、利用者と家族を交え意向を確認するほか、話し合いを持ち方針を共有し支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	職員には情報を共有しており 主治医にもご本人やご家族の意向を伝えている	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	研修を行い経験の回数に関わらずどの職員がその場面に立ちあつたとしても必要なケアを提供出来る様、主治医とも密に 連絡を取り合います	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	入居の際にご説明させて頂き納得して頂いている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	主治医や看護師・ご家族の意向を大切にしながら検討し 検討内容や方針を全職員で周知している	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	ご家族の不安や悩みはしっかり聞いている 可能な限り希望に沿うよう配慮している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ノロ・インフルエンザなどな研修を行い理解している	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	マニュアルに沿って行う。 研修を行い周知徹底をしている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	市や県のホームページより情報を入手し 事業所内でも注意喚起している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	地域ニュースや会議などの意見交換の際に情報収集している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	手洗いうがいのみならず必要に応じマスク着用をし来訪者には 玄関口で手指消毒をお願いしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	入居者の状況や様子をご家族へ報告したり、郵便物を送る際に一緒にご様子を書いた紙を入れている				家族に事業所の行事案内を行い、利用者やほかの家族と交流できる機会を作っている。毎月の請求書送付時に利用者の様子の報告や手紙を同封したり、その都度電話連絡などを行い利用者の様子を伝えている。事業所行事などは報告しているが、職員の退職等異動については伝えていないので、今後の取組みに期待したい。面会時には職員から家族に声かけをして、気軽に話したり相談しやすいように働きかけている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	宿泊は現在実績ないが簡易ベットがあり対応は出来るようにしている。気軽に入れる環境づくりは日頃より心がけている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事の参加呼びかけや案内状の送付を行い機会作りはしている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	疎遠になっているご家族についてはホームより電話連絡を入れ様子を知らせたりメールにて近況報告させて頂いている	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	不安な事や意向などを確認しながら報告させて頂いている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行や身体状況の悪化などご家族にも理解を得られるよう声掛け、説明している 最善な関わり方もアドバイスさせて頂くこともあり				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事報告については出来ているが職員の異動や退職についてはホーム側からお伝えすることはほとんどない	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議の案内や全体レクの案内をしている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランの説明の際にあらゆるリスクを含め説明している				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	主任や担当職員が中心となり行っている			◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居の際に説明を行い理解を得ている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去希望がある場合は転居先に希望通り移れるよう支援している				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金改定時には説明し同意を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立前の地域近隣の方々への説明はあったと聞いてはいるが理解を得られているか否かについては分からない	/	◎	/	近所のスーパーや神社で日常的に地域住民と挨拶や話をしたり、地域の幼稚園と行事を楽しんだり地域との関わりはあるが、事業所の存在が地域に浸透しさらにつながりを深めていきたいという思いにとどまっており、地域行事への参加も職員に限られているため、利用者も参加できるよう取り組んで欲しい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	挨拶などは出来ている 地域の清掃活動・非難訓練・祭りなどの行事は参加できているがほぼ職員の参加であり入居者自身でないことが多い	/	◎	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の方で中には気にしてくださっている方はおられるがまだまだ理解を得られるようにしたい	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	運営推進会議には来て頂ける方もいる	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	挨拶を含め天気のことや 日常会話をさせて頂いている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	過去に数回ボランティアに来て頂き 琴やフラダンスなど披露して頂いたことはある 定期的にボランティアにお願いできる体制を作りたい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域で入居者が利用できる施設があれば利用している	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近隣スーパーや幼稚園など関わりを持っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加のお声掛けはしているが得にご家族の参加が少なく同じ参加者になる傾向	○	/	△	地域住民や家族の参加があり、事業所の活動状況などを伝えて意見交換を行っているが、参加メンバーの固定化もあり、近くの駐在所や地域のお世話役の方などに声かけを行い、多方面からの参加がある取組みに期待したい。外部評価の結果等については、会議で報告し浸透しており、結果報告するだけでなく参加者からは意見や提案を出してもらい、事業所の課題解決等に役立っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	近況報告や活動報告は毎回行っている サービス評価についても話している	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	事業所で困っていること等も含め会議の場でいい案を伺ったりし 情報を得ている	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	曜日や時間帯をかえたり 事業所の行事に合わせてたり工夫はしている	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	ファイルにしいつでも閲覧できるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は分かりやすく職員全員が理解し共通認識を持っている。理念に基づき日々の介護実践にあっている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	誰にでも分かりやすく伝えやすい	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	法人ない研修や事業所研修は基本的なことから専門的なことまで幅広く毎月1回行っている	/	/	/	代表者は職員が意欲を持って気持ちよく働けるような環境づくりに努めており、管理者を通して職員の意見や要望を伝えることができる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は管理業務・その他の担当業務に追われているが各主任と連携しながら行えるよう努めている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	資格や勤続年数なども考慮している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	法人外研修や勉強会に参加しており他事業所の職員と情報交換や相談などを行う機会がある	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の話はしっかり聞いてくれ解決できることは意向に沿ってもっている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修により理解できている	/	/	/	具体的にどのような行為が虐待にあたるのか、身体的心理的に細かく説明された文書があり、事業所内に掲示されている。職員は虐待防止や発見した場合の対応などを研修で学び、普段のケアを振り返り徹底に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りの時やカンファレンスの機会に話し合う時間を設けている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見過ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	各主任や管理者に相談し話し合う機会を作り不適切なケアが見過ごされていないか検討している	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調管理には注意を払い、話しも聞き必要に応じ代表者へ報告する	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修により理解している	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の生活の中やケアプランの見直しの際に話し合いを行い不適切なケアが行われないよう、見過ごされないようにする	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	ご家族より身体拘束の要望があってもその他の方法や対策をご家族に提案し、理解を得ている	/	/	/	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	成年後見制度については研修もあったが日常生活自立支援についての理解は乏しい	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	ご家族より相談があれば情報提供している	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今後、必要に応じて行って行ける体制を作りたい	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時マニュアルを作成し周知している	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修や実践の中で身に付けている	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故・ヒヤリハットに基づき報告書を作成し委員会を開催し対応策を講じ全体に周知する	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	カンファレンスや申し送り時に検討する機会がある	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	苦情対応マニュアルあり職員は理解している	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情マニュアルがあり苦情が寄せられたら速やかにマニュアルに沿って対応している	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	委員会があり九条が寄せられた場合は速やかに委員会を開催し対応策が話し合わせ職員に周知徹底している	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	相談窓口は設置しているがほとんどの場合、各ユニット職員に伝えることが多い	/	/	◎	利用者には普段の生活から、家族は面会時や電話などで意見や要望を把握するように努めている。管理者は普段から職員と現場にすることが多く、日常的に職員は管理者に意見や提案を伝えることができる環境にあり、心強さを感じる毎日である。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	相談窓口の設置個別に面会の際に伺ったりしている	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約当初の説明となっておりほぼ職員が聞く流れになっている	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	連絡はいつでも取れ意見は聞いてくれる	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	職員より話を聞く機会はあるがそれを話し合う機会は作れていない	/	/	○	

愛媛県グループホームいまづ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年2回 自己評価に取り組んでいる	/	/	/	運営推進会議でサービス評価の結果を報告しているが、今後は目標達成に向けての取り組みについてモニターをしてもらい、より質の高い事業所にむけて事業所全体で取り組んでいくことが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	事業所の課題を明らかにするいい機会となっている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を見つけ解決策や対応策を見出し取り組む意思はあるが日が経過すると意思がうすれ忘れがちになる	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議で報告はしているが取り組みのモニターについては今後行っていただける様に働き掛けていく	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	報告は行っているが成果の確認は今後行って行きたい	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災・地震・津波・風水害についてはマニュアルがあるが原子力火災については今後早急に検討しマニュアル化したい	/	/	/	様々な想定で避難訓練を行い消防からのアドバイスももらっているが、地域住民にも参加してもらい、地域との協力体制を築いていけるような取組みに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	夜間、日中での想定で行っている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に行っている	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	訓練には消防署は参加して頂いているが地域の方にも協力、支援して頂けるよう働きかけて行きたい	○	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の訓練には参加している	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	初任者研修の講師を担当した職員がいる日々のご家族からの相談の中で実践を通じての体験談をお話させて頂いたり参考にしてもらったりしている	/	/	/	地域の高齢者や家族からの相談等のニーズもあり対応している。市や地域包括支援センターと連携を図り、地域の勉強会やボランティア活動に協力して積極的に参加するなど、地域との関係は強固になっている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談が寄せられた場合は支援している	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	活用されていない	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	以前は初任者研修の学生の受け入れがあったが今はない	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括センターによる西地区の勉強会を始め地域のボランティア活動は積極的に参加している	/	/	○	